

平成24年7月13日

庄原市議会議長 様

議 会 報 告 会 報 告 書

報告者： 林 高正 ⑩

開催日時	平成24年7月12日(木) 19:00~20:50		
地域名	東城		
会場名	市役所 東城支所		
出席議員名	司会 八谷 文策	説明 小谷 鶴義	
	記録 林 高正		
参加者数	16人		
<p>(報告に対する質疑)</p> <p>〇〇：議員定数の削減(20人)は、合併時からの考え方だったのですか。</p> <p>回答：そうではありません。合併当初は、33名の議員数でしたが、2回目の改選時に、定数を25名としました。そして今回、20名としたものです。</p> <p>報告に対する質疑はこれにて終了となる。この時点で、会も終了という雰囲気だったのだが、30分で終わるわけにもいけないので、どんなことでもいいから発言してくださいと願います。</p>			

(意見交換)

〇〇：昨年から議会報告会をされているが、この会場は昨年も参加者が少なかったので申し訳ないが、どの様な意図で報告会をされるのですか。

回答：庄原市議会は議会改革を進めており、議会基本条例に議会報告会を年1回以上開催することとしています。開かれた議会を目指している訳です。

女性：シュオン問題で、市長は事業継続と発言されていますが、来年の市長選挙があるのに、無責任ではありませんか。確信をもった発言とも思えないので、早く辞めていただきたい。

回答：市長の考えは分かりません。

女性：若い人が住むための施策等に対する議会としても取組や、高齢者の方々の暮らしを良くしていくにはどうすればいいと考えていますか。

回答：①雇用の場の創出として新たな農林業の制度を模索しています。就農希望者に生活保障や就農支援策により定住できる仕組みを導入したい。

②若者たちでNPO法人を設立して、行政の仕事の一部を担うべきだと思う。そのことで、若者や地域も活性化できると考える。とりあえず、行動することです。

③女性の社会進出を応援したい。男性中心の考えだけのまちづくりには限界がある。

女性：地元の子が地元に残れない(残らない)のは、何故ですか。

(相当に若いお嬢さんでした)

回答：自分たちのまちに誇りが持てる生き方が必要ではないでしょうか。そのために、外部の人間を入れてみてはどうですか。地域おこし協力隊という制度がありますので、活用してみてください。自分たちのふるさとを再認識することが重要です。教育の問題もありますが、でないをできるにする発想が必要だと思います。今日あなたは勇気をもってこの会場に来られたのだから、あなたが先頭に立って行動してください。その協力は喜んでさせていただきます。

女性：若者の定住に対する家賃補助や改築補助はあるのか。

回答：詳しくは、支所の企画調整室より対応させていただきます。